

本日の学び:「打ち明けるヨセフ」 テキスト:創世記45章1-8節

【理解の手がかりとして】

7年の大豊作のあと、7年の大飢饉がやってきた。エジプトでは、ヨセフのおかげで食糧が十分蓄えられていたが、他の国々は食糧不足に陥った。カナンは、エジプトに穀物があると知って、息子たちを買いにやらせる。かくしてヨセフの兄たちはエジプトにやってきて「地面にひれ伏し、ヨセフを拝した」(42:6)のであった。これはあのヨセフの夢(37:7、9)の実現であった。

その時、ヨセフは兄たちであったことが分かったが、兄たちは、このエジプトの司政者が、まさか銀20枚で売り飛ばした弟ヨセフであるとは気づかなかった。ヨセフは、自分の素性を兄たちにすぐには明かさず、意地悪くあしらうことが42章から45章にかけて記されている。

その間に父ヤコブと、母を同じくする弟ベニヤミンの健在であることを聞き出し、ベニヤミンをカナンから連れてこさせる。そして兄ユダが「神が僕どもの罪を暴かれたのです」(44:16)と懺悔をする。この時はじめて、ヨセフは自分の事を明らかにする。その場面(45:1-15)は実に感動的である。

ユダの嘆願の中にあつた老いた父を思う心、さらに弟ベニヤミンへの配慮を聞いて、ヨセフは兄弟たちが、かつてヨセフを穴に放り入れ、奴隷として売ったことを悔やみ、人間的に成熟したことを知った。これまでも兄弟たちの話を聞いて二回泣いたが、二回とも兄弟たちには悟られないようにした(42:24、43:30)。しかし今回は、周りのエジプト人たちに席を外させて、兄弟たちの前で感情を爆発させ「声をあげて泣いた」(45:2)。

ヨセフは父ヤコブの安否を尋ねる。兄弟たちの驚きは想像に難くない。突然に今までファラオの代理人と恐れていたエジプトの総理大臣が、自分たちの弟ヨセフであると聞かされて、余りの驚きに言葉も出なかったのである。

ヨセフが兄弟たちに「どうか、もっと近寄ってください」(45:4)と言ったのは、総理大臣に対する接見の距離間から実の兄弟としての距離への転換とも思える。そしてその招きと共に、ヨセフは過去の兄たちの罪を赦す言葉を告げる。

ヨセフと兄たちとの和解というのが、今単元の大切な一つのテーマであるが、そのヨセフの心を占めていたのは神の救いの計画である。ヨセフは、ファラオの夢を解いて得られた神からの啓示である7年の飢饉に言及して、その飢饉の間でも「残りの者」(45:7)があること、それが神の計画であると述べる。そしてその救いの計画のために自分はエジプトに遣わされたのではあって、兄たちによる売り飛ばしは神の計画の一部に過ぎないと言うのである。

さて、「残りの者」というのは、聖書においてとてもよくある考え方である。たとえば、ノアの洪水の時にも、神はノアとその家族、そして動物たちを一つがいつ箱舟に入れて生き残らせ救われた(6:18-20)。また預言書もこうある。「その日には…残りの者が帰って来る。ヤコブの残りの者が、力ある神に」(イザヤ10:20-21)「ぶどうの残りを摘むように、イスラエルの残りの者を摘み取れ」(エレミヤ6:9)。

このヨセフ物語を読む視点において、神の救済史の視点は重要である。一つひとつの出来事、人間模様がドラマチックでそのことに注視しがちであるが、ヨセフのように視点を「神が何をなされたか」に置き、時間も空間も俯瞰的に見据え、その大いなる射程から今(ある使命)の意味を悟ることができたらと思う。

本年7月に「恵みによる残りの者」(ローマ11:1-10)と題した宣教をした。その内容から一部リマインド。

「左近淑(さこん・きよし)」という人が、聖書に見る『残りの者』の思想について次のように書いておられ

ました。『〈残す〉とは徹底的破壊のあとに立ち立てられる神の約束にみちた計画である。…それは終末的希望であって、神以外に根拠をもたぬ概念である。…残りの者の根拠は人間的資質や可能性にあるのではない。残りの者自身の〈義〉にあるのではない。それは神の熱心によるのであり、神ご自身の義の貫徹に根拠づけられる。使徒パウロは明瞭に、…残りの者の根拠を神の恵みにおいている。これにたいする残りの者の側の応答は信頼しかない。いいかえるなら、神により頼み、主を望む信仰集団、つまり教会の在り方である。』…教会とは、神の救いを信じて、それは個々人の事柄を遙かに超える世界規模の救いを信じて、『終末』という大きな時の射程で、その神のご計画が進められていることを確信して歩む者たちです。ある意味、教会は『選ばれた者』たちの集団と言えます。…『えっ、そんな傲慢で鼻持ちならない言い方！』と受け取らないでください。それは『あなたにその優れた資質があるから』とか『あなたが義に満ちているから』という理由ではありません。神の選びは、人間の側に根拠があるのではなく、神の憐れみと恵みによるのです。『神の憐れみなくては救われない』との自己理解、ただただ神の恵みを受け取る砕かれた魂を呼び集めてくださるところ、それが教会です。…2 ペトロ 3 章 9 節の言葉を心に刻みましょう。『一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。』

『聖書教育』より

「人を傷つけ苦しめてしまった自分自身の弱さに向き合うことは簡単ではありません。…兄たちはヨセフが仕組んだ巧妙な懲らしめとも言える道ゆきの中で、ヨセフの味わった苦しみを少しずつ辿らせられます。…ヨセフの苦悩を追体験してゆくのです。…ユダの告白はヨセフのわだかまりを氷解させました。」(聖書の学び～心開いて語られた言葉の力)

「自分の人生を導いているのは神であり、兄たちを恨んではないことを自分の口で兄たちに語ることができたことは、ヨセフにとってはこの上ない解放の時となったことでしょう。」(聖書の学び～わたしはヨセフです)

「神の愛や赦しに触れ、思いがけない告白や自己開示が飛び出すことがある教会の交わり。うれしいことばかりでなく、驚いたり、どう受け止めていいのか迷ったり、困ったりすることもあるでしょう。信頼して心を明かしてくださる相手とその言葉を、尊重して受け止めることを大切にしたいです。」(大人クラス)